

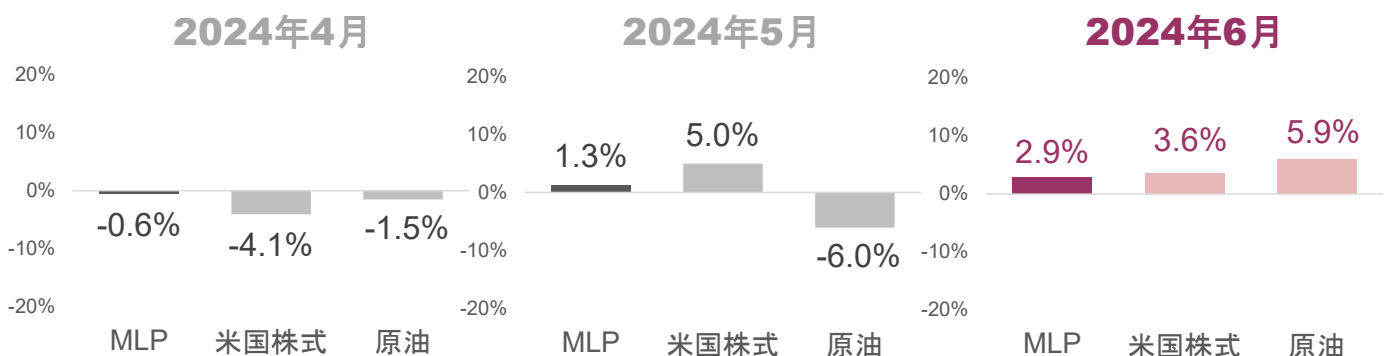
当月のS&P MLP 指数の動き

6月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+2.9%と2ヵ月連続での上昇となりました。

月前半は、産油国による減産縮小方針を受けた原油価格の下落や、米国における利下げ期待の後退などが重石となったものの、月後半は、米国における夏の原油需要への期待を背景に原油先物が、米主要統計を受けた利下げ観測の強まりなどを背景に米国株式が、それぞれ上昇する中、MLPも上昇基調となりました。

過去3ヵ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)



MLP:S&P MLP 指数、米国株式:S&P 500 種指数、原油:WTI

主要指標の動き

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3ヵ月前月末	前年末	前月末比	3ヵ月前月末比	前年末比
	2024/6/30	2024/5/31	2024/3/31	2023/12/31			
S&P MLP 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	8,652.98	8,410.37	8,356.02	7,384.81	2.9%	3.6%	17.2%
プライスリターン	1,690.54	1,643.14	1,663.74	1,500.43	2.9%	1.6%	12.7%
S&P 500種 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	11,907.15	11,494.70	11,418.03	10,327.83	3.6%	4.3%	15.3%
プライスリターン	5,460.48	5,277.51	5,254.35	4,769.83	3.5%	3.9%	14.5%
S&P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)							
トータルリターン	1,574.98	1,595.55	1,614.08	1,419.77	-1.3%	-2.4%	10.9%
プライスリターン	698.23	708.04	721.24	640.05	-1.4%	-3.2%	9.1%
S&P 米国 REIT 指数(米ドルベース)							
トータルリターン	1,680.47	1,633.37	1,680.31	1,686.38	2.9%	0.0%	-0.4%
プライスリターン	330.83	323.84	334.07	338.75	2.2%	-1.0%	-2.3%
米国ハイイールド債(ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))							
トータルリターン	1,631.92	1,616.32	1,614.33	1,590.32	1.0%	1.1%	2.6%
プライスリターン	67.84	67.56	68.22	68.29	0.4%	-0.6%	-0.7%
米国10年国債利回り	4.39%	4.50%	4.20%	3.88%	-0.11	0.19	0.51
原油(WTI) 米ドル/1バレル当たり	81.54	76.99	83.17	71.65	5.9%	-2.0%	13.8%
天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり	2.60	2.59	1.76	2.51	0.5%	47.5%	3.5%
米ドル(対円)	160.88	157.31	151.35	141.04	2.3%	6.3%	14.1%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

当月の出来事いろいろ

- 2日、OPEC(石油輸出国機構)と非加盟産油国からなるOPECプラスは、年末までの予定だった原油の協調減産を2025年末まで延長することを決めた。ただし、サウジアラビアなどの有志8カ国が、協調減産に加えて続けている自主減産については、9月末まで延長するものの、その後は段階的に規模を縮小することとなった。これを受け、原油先物は4日にかけて売られ、WTIが終値ベースで1バレル=73.25米ドルと2月以来の安値を付けた。
- 12日、米国においてFRB(連邦準備制度理事会)が市場予想どおり、政策金利の据え置きをFOMC(連邦公開市場委員会)で決定し、パウエル議長は会見で、インフレ率が目標の2%に持続的に向かっているとの確信を強めるためには、良好なデータがさらに必要と述べた。また、FOMC参加者の2024、25年の物価上昇率や政策金利の見通し(中央値)が引き上げられ、利下げ回数は年内が1回、来年は4回と示唆された。これらを受け、米国の国債利回りの低下幅が縮まったほか、NYダウ工業株30種は小幅安に転じたが、S&P500種、ナスダック総合の両指数は最高値を更新して引けた。
- 18日に発表された5月の米小売売上高は、前月比の伸びが、全体およびコアともに前月のマイナスからプラスに転じたものの、予想を下回ったほか、前月の実績が下方修正された。これを受け、米利下げ観測が強まったことなどから、株式相場は続伸し、S&P500種、ナスダック総合の両指数は最高値を更新した。また、原油先物は20日にかけて続伸し、WTIが82.17米ドルを付けた。
- 25日、FRBのボウマン理事が、インフレ見通しには上振れリスクがあるとして、もうしばらく政策金利を高水準に維持する必要があるとの見解を示した。利下げに慎重なFRB理事の発言などを受け、原油先物が反落した。

今後の注目点

- 7月から、2024年4-6月期の決算発表シーズンに入る。これに先立ち、MLP各社から発表される分配金の動向に市場の注目が集まる。

2024年上半期の原油価格の動向

2024年に入ってから原油先物は、中東情勢やロシア・ウクライナ情勢など地政学リスクの高まり、OPECプラスの減産延長などを背景に4月初にかけて上昇し、4月5日にWTI原油先物価格が1バレル=86.91米ドルと2023年10月以来の高値を付けました。その後は、米利下げ観測の後退や主要産油国による減産の縮小方針が重荷となり、下落基調となったものの、6月末にかけては、夏のドライブシーズン到来に伴う需要増への期待などを背景に、持ち直す展開となりました。

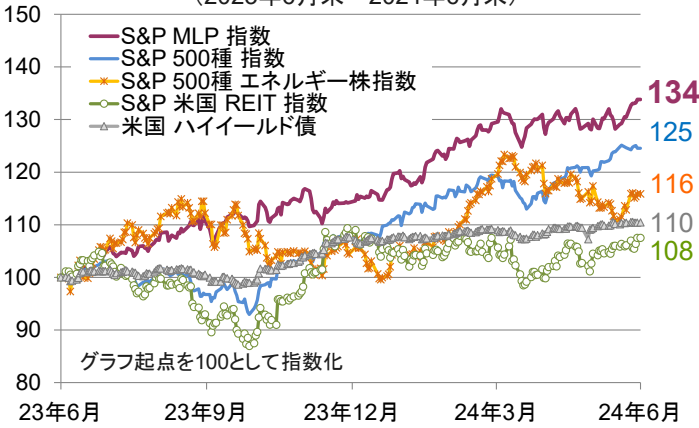
＜原油先物価格(1バレル当りの推移)＞
2023年1月初～2024年6月末



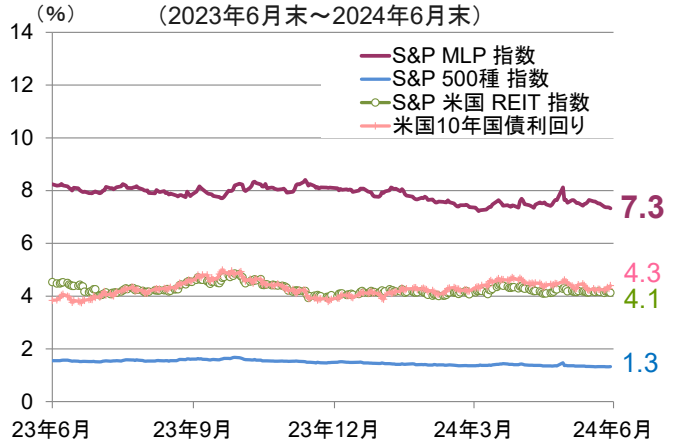
信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

■過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)
(2023年6月末～2024年6月末)



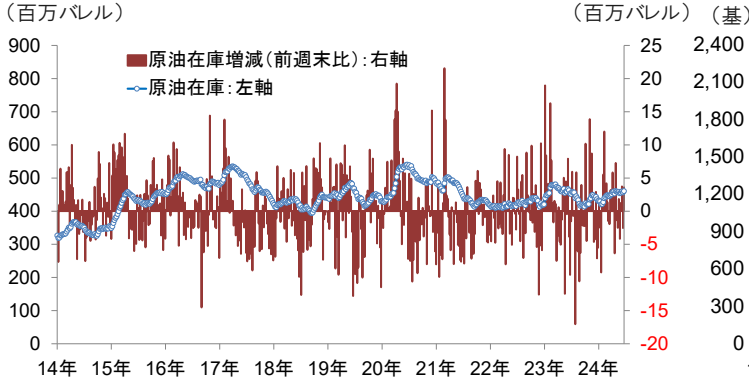
■過去1年の各資産の利回り
(2023年6月末～2024年6月末)



※各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。
※上記利回りは切り捨てにて端数処理しています。

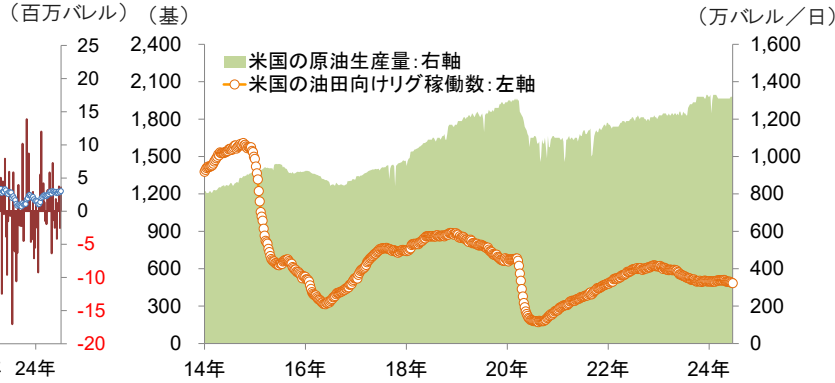
■米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2024年6月第3週末)



■米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

(2014年1月第1週末～2024年6月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減ると)、需給緩和懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■原油価格と米ドル指数*

(2014年1月初～2024年6月末)



*米ドル指数は主要通貨に対する米ドルの水準や動きを示す指数です。

原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調に振れる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)
※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

※当資料に示す各指数の著作権等の知的財産権その他一切の権利は、各指数の算出元または公表元に帰属します。